

## 地域福祉の 在り方議論

中区で夏季大学

地域福祉の課題について考える県社会福祉夏季大学（県社会福祉協議会主催、中国新聞社会事業団共催）が3日、広島市中区の中国新聞ビルであった。

県内の医療や福祉関係者たち約380人が参加した。神奈川県立保健福祉大の山崎泰彦教授が講演し、「介護保険料の引き上げは避けられない状況。公的サービスに加え、地域社会で互いに助け合う

仕組みづくりが欠かせない」と強調した。

続くシンポジウムでは、医療や福祉、介護をめぐる生活課題について意見交換。点字シールを張った薬袋を提示する薬局や、地域との交流スペースを設けたグループホームなどの事例が報告された。

最後に京都光華女子大の妻鹿ふみ子教授が、地域の生活課題解決に向けた取り組みについて「住民のニーズを知る」「つながりを知ることから始める」ことが重要と訴えた。